



千葉県知的障害者福祉協会

施設長・職員研修報告

千葉あいご
二〇一四年三月号

第56号 (二〇一四年三月号)

発行日 平成二十六(二〇一四)年三月三十日

編集者 里見吉英

発行所 千葉県知的障害者福祉協会 (本部) 千葉市中央区中央四一四一十 友美ビル二一二〇四二(二三二四)五七一二

(事務局) 〒280-0471(四五七)二四六一 HP <http://www.chibachiteki.com/>

TEL 0471(四五七)二四六一

目次

- 千葉県知的障害者福祉協会施設長・職員研修報告
社会福祉法人九曜会たかね 施設長 佐藤 真紀子 ① ③
- 第41回 手つなぎ作品展 報告
北部・大久保学園 中島 康雄 南部・ふる里学舎 伊東伸之輔 ④
- 支援スタッフ部会コーナー ⑤
- 新事業所紹介 ⑥
- わが施設の自慢・アピールポイント ⑦
- ビーアンビシャス どんぐり俱楽部 ⑧
- 千葉知協トピックス・事務局だより ⑨

毎年、千葉県知的障害者福祉協会主催で行われました「自立支援法セミナー」が、今年は千葉県内での事件を受け、「施設長・職員研修会」という形で、今一度、自分たちの足元を見直そうという趣旨のもとで、3月11日開催されました。奇しくも3月11日は3年前に東日本大震災が起った日でもありましたので、会場全員で黙祷を捧げてからの開催となり、気持ちが引き締まる研修会の始まりとなりました。

はじめに主催者挨拶として、千葉県知的障害者福祉協会会长里見吉英より挨拶がありました。「千葉県知的障害者福祉協会では、この2年間なことに、冒頭のとおりの虐待事件が昨年末に起きました。亡くなられた方をはじめ虐待防止や権利擁護について力を入れ、研修会等を行ってきました。しかしながら、誠に残念なことに、冒頭のとおりの虐待事件が昨年末に起きました。亡くなられた方をはじめ虐待に遭われた方、また保護者の方々に対しても申し訳ない気持ちです」と述べられました。

虐待をする私達としては、言いようのない悔しさが込みあげると同時に、里見会長の言葉には、とても重さを感じました。事件後も協会として支援をする私達としては、利用者の方に視点をおき、協会会員施設の協力をいただき、職員の派遣をして施設で生活する方たちのサポートを続けています。閉鎖的

になりがちな施設に外部の目を入れることの大切さ、また他施設職員の違う視点での感想や意見を取り入れ、改善していくことを目的としています。またこのことについては県にも報告をしています。

施設の中での虐待があつたことは紛れもない事実であり、私たちは徹底的に原因を究明し二度と起きない体制を各法人、施設で作っていくなければなりません。今回の原因と考えられるのは「組織・管理・教育体制の未熟さ、法人の権利擁護に対する姿勢の欠如、管理者・役職者の現場への指導力不足、利用者へのケース検討不足、施設の閉鎖性、職員の適正」などが考えられます。利用してくださる方々の信頼を裏切り、入所施設への不信感を持たせてしまつたこの事件。「今一度亡くなられた方被害にあわれた方



にお詫びして、これを機に障害者がしっかりとられる、安心して生活できる千葉県の福祉でありたいと願っています」と里見氏は最後に力強く述べられました。

「行動障害のある方への入所施設での虐待」

—日本・イギリスの事例—

元弘済学園施設長 三島 卓穂氏より

海外の虐待事例を知り、そこでどのような対応策をとったのか、そして現在我々が何処に位置しているのかを知り、どうしたら再発が防げるのかと共に考えたいと述べられ、講演が始まりました。

イギリスの抜本的法制度の改革のきっかけとなつた「ウインター・ボーン・ビューリー事件」から考えていきます。この事件はBBC放送の隠し撮りにより発覚した、入所施設において行動障害を持つている方への虐待事件です。この時虐待の原因と考えられたのが、目的を失った組織、多くの職員が虐待に関わってしまうカルト文化、専門知識を持った職員の不在。そして入所施設の隔離、密室性と自己完結性である。入所施設の自己完結性は職員を退屈にし、そこからかかる文化的な文化が生まれ、人権意識の低下が起こる。特定の見方に偏り体罰は必要だと思つてしまふ。根拠なく絶対的指導感を持つものの存在が大きくなつていく。

「原因と考え方との逆をしていくことが解決なのではないだろうか」と三島氏は提言されていました。つまりはモラル低下には厳しい監査。目的、使命の再確認、隔離せず社会に戻す。同じ人を集めない多様性の社会の許容です。

すでに千葉県では、誰もが、ありのままに、その人らしく、地域で暮らすことと条例で諷われています。国においても、障害者権利条約の批准を受け、法律の整備に着手している状況です。イギリスのように国を挙げての抜本的改革

サービスはどうあるべきなのかを考え、「マンセルレポート」を軸に抜本的改革をしていくことを決めました。その「マンセルレポート」の内容とは以下のとおりです。

- 1 行動障害支援予算を最優先。
 - 2 長期入院、寄宿舎の廃止。
 - 3 家族へのレスパイトサービスの充実。
 - 4 施設ではなく個人にお金を払う。
 - 5 個別化された質の高いサービスを地域で用意。
 - 6 デイの充実。
 - 7 多領域連携。
 - 8 24時間・365日サポート体制。
- これらを実施していくことで、システムを再構築し、虐待を生む要因を解決していくことを実行してきました。
- またイギリスの素晴らしいところは、地域社会が当たり前という理念（隔離＝虐待）と人権への熱い思いを持ち、厳格な監査機関や当事者団体からの意見を受けながら、実行するという期日を決め、強い推進力を持って改革を実行してきたところであります。
- それでは日本の我々はどうしていくのか。
- 今の私たちは、施設に利用者を集め、隔離し、その為に目的を失い、職員が集まらない不人気職場となり、モラルが低下した、組織が病気である状態ではないだろうか。
- 「原因と考え方との逆をしていくことが解決なのではないだろうか」と三島氏は提言されていました。つまりはモラル低下には厳しい監査。目的、使命の再確認、隔離せず社会に戻す。同じ人を集めない多様性の社会の許容です。
- 河原氏からは、今年の4月より変わる制度のアウトラインについての説明がありました。まず4月からケアホーム・グループホームが一元化され、訓練等給付の中に位置づけられるとのことです。
- 「どう変わる？ 障害程度区分・グループホームの一元化」**
- 日本知的障害者福祉協会 委員長 河原 雄一 氏
- 障害支援区分の在り方に関する特別委員会 委員長 河原 雄一 氏
- 河原氏からは、今年の4月より変わる制度のアウトラインについての説明がありました。まず4月からケアホーム・グループホームが一元化され、訓練等給付の中に位置づけられるとのことです。
-



形態として「介護サービス包括型」「外部サービス利用型」の2つに分かれ、「介護サービス包括型」は現在の生活支援員を配置しているケアホームが移行していくものとし、区分1以下の人の報酬も設定していきます。

「外部サービス利用型」は今までのグループホーム単体が移行し、利用者個々の介護サービスを居宅事業所に委託していくことになります。この時サービス利用計画や個別支援計画にサービス内容のプランを入れていくことが必要となり、相談支援専門員やサービス管理責任者がこの仕組みを理解し、組み立てていけるのかが課題になるとのことでした。

「外部サービス利用型」についてはホームヘルプの委託先は同法人内でも認められるとのことです。報酬については、個々の利用者のサービスの必要量にて算定されていくことでした。その他の報酬としては、「日中支援体制加算」の評価見直しを行い、以下のものが新設されます。

〔日中支援加算Ⅰ〕

〔65歳以上・区分4以上は1日目から算定。〕



年齢制限なしで、3日目より算定。「夜間支援体制加算」も夜勤と宿直型報酬を新設し、さらに連絡体制や防災体制を評価した時間対応できる、医療連携体制加算も新設されています。

また単身での生活を送ることができるための「サテライト型」が創設されています。

次に障害支援区分への見直しについての説明をしていただきました。

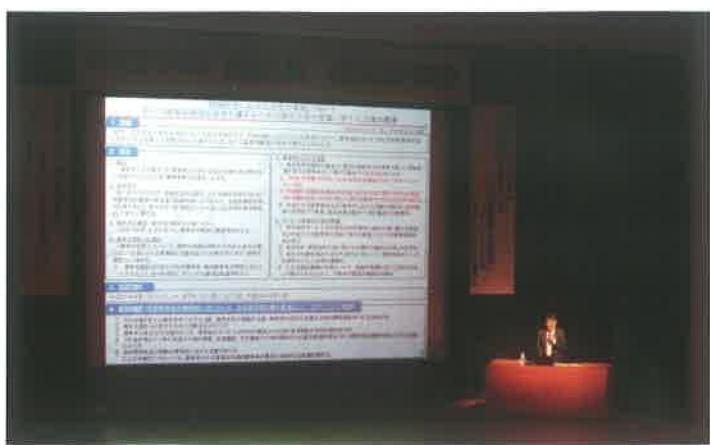
そこで見直されたのが1次判定の新たな判定式の構築です。認定調査員が聞き取りを行う項目は80項目となり、医師の意見書だつた部分がコンピューター判定に含まれ、評価されてしまうことになりました。これによつて2次判定は特記事項と1次判定で含まれないが、私達はもう一度原点に返り、私達のあるべき姿や行わなければならぬことを考えなければならぬのではないかと感じました。人の幸せを支えていくことが、サービスでいいのだろうかと感じた研修会でした。

援」に変わると、いうことで、調査に関わる判断基準が大きく変わつてきました。できたり、できなかつたりする場合の判断としては「できない・支援が必要な状況」での判断をしていきます。

特記事項の書き方にについても、見守りや部分的支援についても細かく具体的に記載するということが求められます。調査項目以外で支援の必要性が確認できたものについても、記載することになります。特記事項のウエイトが大きくなり、今後調査員の質やレベルが大きく問われていくこととなります。

福祉をめぐる制度は慌ただしいものとなりそうで、遅れをとらないように情報感度を高めていきたいと思いました。

また虐待事件については、三島氏の講演を伺いながら、私達はもう一度原点に返り、私達のありべき姿や行わなければならぬことを考えなければならぬのではないかと感じました。人の幸せを支えていくことが、サービスでいいのだろうかと感じた研修会でした。



社会福祉法人九曜会たかね園 施設長

佐藤真紀子

第41回 手つなぐ作品展 報告

幹事施設・大久保学園 中島康雄

2月15日(土)・16日(日)イオンモール八千代
緑が丘にて第41回北部地区「手をつなぐ作品展」
が開催されました。前日(14日)は記録的な大
雪に見舞われ搬入作業も困難が心配されました

イオンモール八千代緑が丘様をはじめ作品展開催に向け準備段階からご協力頂きました皆様に深く御礼申し上げます。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



今年はイオンモール八千代緑が丘様のご厚意で昨年より売り場スペースを広げて頂きました。また、販売員の服装等についてのアドバイスや告知等に多大なご協力を頂きました。お陰様でより多くのお客様に創作品を知つて頂く事が出来たと確信しております。

また、購入に来ていただいた顔なじみのお客様から「久しぶり。来るのを楽しみにしていたよ。こここのパンはおいしいからね。」と嬉しいお言葉。さらに、イオンのご担当者から「正直、これほど盛況とは思いませんでした。来年も是非、企画して欲しいです。」と言葉をいただいております。これらのお言葉は販売に携わった者として非常に嬉しく思うとともに、作品や製品を通じ、知的障害者への理解、利用者さんの日々の頑張りが大きくなアピールできたのではないかと思います。

最後に約152万円の売上があつたことをご報告するとともに、当作品展の趣旨をご理解頂き、ご賛同して頂いたイオンモール富津様をはじめ各施設関係者の協力に紙面ではあります御礼申し上げます。

いざ、開店するとお客様がお目当てのブースへ向い、レジは長蛇の列。特に3日目の土曜日は54万円を売り上げ、当日販売担当だった職員はお昼の休憩もなかなかそれなかったとのことでした。



報告

幹事施設・ふる里学舎伊東伸之輔

手をつなぐ作品展 中部地区 開催延期のお知らせ

2月に開催を予定しておりました中部地区の「手をつなぐ作品展」ですが、会場の都合により延期させていただきました。準備を進めていただきました施設の皆様には大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

開催日程は以下の通り、変更となります。

開催日	平成26年4月18日（金）～4月21日（月）
会場	イオンリテール株式会社 ゆみ～る鎌取ショッピングセンター 2階催事場
	住所：千葉県千葉市緑区おゆみ野3-16-1
	TEL：043-226-9216
会場責任者	中野学園 青木 大輔

支援スタッフ部会コーナー

～支援スタッフ部会研修会報告～

しおさいホーム 林 政人

平成25年11月27日、千葉県総合スポーツセンターにて第2回支援スタッフ部会研修会が開催されました。支援スタッフ部会副部会長で社会福祉法人翠昂会ピクシーフォレスト 山崎龍也氏による「ISO導入の取り組みと個別支援計画書の流れ」というテーマで実践発表が行われました。

今回の研修会は、開催が決定した時からとても興味を感じており、参加することがとても楽しみでした。なんと言っても同じ支援スタッフ部会の仲間であり、身近に感じている山崎氏が発表してくださるということ。そして私自身、以前に異業種で働いていた際、ISOの認証取得に深く携わったこともあり思い入れが強く、そんなISOをこの福祉という業種に導入したことによりどのように反映されているかということなど知りたいことも多く、期待で胸が一杯でした。

そもそもISOとは?という部分から分かりやすく丁寧に説明してくださいました。ISOとは International Organization for Standardization(国際標準化機構)の省略であり、その名通り国際的に標準となるという意味で、組織のルールを明確にして文書化(マニュアル化)し、決めたルール通りに組織が管理されていることを第三者(ISOの審査機関)に証明してもらい「この組織は信頼できる!」というお墨付きをもらうという第三者認証制度だそうです。そして、この機関が定めているのがISO規格(国際規格)で、規格についてはいくつかの種類と目的があり世界中の誰もがこの規格を利用できるそうです。その中から導入されたのがISO9001という品質管理体制(仕事の仕組みを管理する体制)に関する国際規格で、なぜ取得導入するに至ったのか?という部分においては、①法人理念、方針の浸透 ②顧客満足を実現させるための体制作り、サービスの質の向上 ③顧客満足を実現できる組織であることを証明するためだったそうです。更には、④確実な業務の遂行によるサービスの標準化 ⑤不具合(ミスやエラー)事故などを未然に防ぐ ⑥継続的な改善を約束する ⑦外部審査機関による維持審査(1年1回)、更新審査(3年1回)を行うという理由もあったそうです。背景として措置制度から支援費制度へ変わり利用者との直接契約となり顧客満足が重視され始めたことにより、選ばれる施設作りを目指していくかなければならなかったという意向がうかがえました。そして取得したことにより、①法人理念、方針が職員全体に浸透し、同じ目的と方向性をもつて業務が行われている ②顧客満足(利用者満足)重視により利用者の意見、要望が反映される ③日々の是正、予防によって同じ過ちを繰り返さない財産の獲得 ④重要な業務を手順書に整理することで標準化された ⑤内部監査や更新、定期審査により客観的な評価を受けるとのことで、①~⑤の結果の通り、常に改善し続けるシステム(ISO)が福祉サービスの向上に繋げることがでたとのことでした。

個別支援計画とISOについては、目標達成へ向け、計画→実行→検証→改善という個別支援計画の流れに沿って、更に細かく計画作成のための手順書を作成し成果を得られているとのことでした。

今回の研修会へ参加し、福祉そして支援業務においてもISOがしっかりと機能し、より良いサービス提供に繋がっていることが理解できました。組織それぞれで組織に合ったルールを作り、ルールを守れなかつた際には原因を追及し改善に結びつけるシステムを構築し、少しずつでも改善していくシステムを組織に根付かせていくことで、組織は少しずつ良い方向へと変わっていくということを改めて考えることができ、とても有意義な研修会となりました。

以上、報告とさせていただきます。



支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント⑯

平成20年度から14回にわたり44の“ブチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今年最後は3つの“ブチ自慢”です!

印旛・山武・森のアトリエ

ギャラリー併設の「森のアトリエ」オープン

昨年の8月、印西市草深に「森のアトリエ」がオープンしました。いんば学舎・草深とソロク倶楽部の間の山の中に、ひっそりとたたずんでいます。通りを歩く方々が、あの建物はなに?と足をお運びくださいます。これまで法人内の各施設にて絵画や陶芸、さをり織りなどの創造的な活動に取り組んできましたが、「より豊かな生活を」という想いで半面はアトリエ、半面はギャラリーのアート専用の建物ができました。BGMの流れる落ち着いた雰囲気の中、景色を眺めながらの創作活動ではこれまで以上により豊かな表情の作品が生み出されます。そしてギャラリーでは一点、一点大切に飾られた作品たちがとても輝いてみえます。お客様が足を止め、じっくりと作品と向き合う、そんな空間が「森のアトリエ」です。



森のアトリエ 宮脇章子

夷隅・長生・みずほ学園

恵まれた自然環境が自慢です

私の働いている施設は勝浦市にあるみずほ学園という施設です。自然に囲まれたところです。四季の変化を肌で感じる事ができるのが自慢です。施設の中に目を向けると、モチベーションの高い職員が沢山います。入所されている利用者の方がどうすればより良い生活を送ることができるか、自分たちもどうすればスキルアップできるか常日頃考えています。そのように志高い職員が多いことも自慢のポイントです。私は4年目になり、まだ自分の勤務施設しか知りませんが、そのような先輩に囲まれていてとてもよかったです。良い環境・良い職員に恵まれている、このことが何よりの自慢です。



施設近所の散歩コースです。夏場で青々としています。

みずほ学園 関 利晃

安房・市原・君津・クローバー学園

年間を通して、楽しい行事が盛り沢山!

クローバー学園では、1年を通じ様々な行事が行われます。バーベキューや第2クローバー学園との合同行事である納涼祭、市原麺類業組合の皆様のご協力により行われている流しそうめんや、そば大会等ありますが、毎年1月に行われる新年会では、例外なくすべての支援員、もちろん施設長も参加し、それぞれがグループに分かれ、工夫を凝らした余興を披露します。ダンスやコント、本格的なバンド機材を持ち込んだミニライブ、特撮好きの支援員は毎年コツコツ衣装や小道具、着ぐるみを買い揃え、本格的な仮面ライダーショーを披露しています。(写真参照)

今後も、マンネリ化することなく、利用者さんや保護者の皆様が、笑顔で楽しんでいただけるようにユーモラスな行事を企画したいと思います。



クローバー学園 阿部桂佑

新事業所紹介

ビーアンビシャス（成田市）

浅村恵未奈



ビーアンビシャスは2003年にNPO法人として始まり、2011年に社会福祉法人まごころ多機能型事業所ビーアンビシャスとして新たに歩を歩み始めました。

色々な方々に支えられ2012年には施設の建て替えが行われ、より充実した環境で作業を行えるようになります。作業内容、利用者数も増え、益々活気づいています。

ビーアンビシャスでは利用者が運営する企業体を目指しており、利用者のことを「社員」と呼んでおります。モットーは「みんな仲良く」であり、一人一人が仲間の一員であることを念頭に助け合おります。

どんぐりクラブ（成田市）

児童発達支援管理責任者 山崎 拓也



ビーアンビシャスでは仕事後にサークルや部活動も行つており、現在はダンス・運動・ソフトボール・卓球の4つのグループが曜日ごとに活動しております。最後に、社会福祉法人まごころは運用開始からもうすぐ3年が経ちます。11年前、理事長夫妻が福社作業所として立ち上げたこのビーアンビシャスへの想いを受け継ぎ、地域に愛されるまごころ溢れる施設を保つて行きたいと思つております。

ビーアンビシャスでは、立派な施設が完成してからもうすぐ3年が経ちます。11年前、理事長夫妻が福社作業所として立ち上げたこのビーアンビシャスへの想いを受け継ぎ、地域に愛されるまごころ溢れる施設を保つて行きたいと思つております。

これまで、しおさいホームで高齢となつた利用者さんの支援に携わつてきました。そしていま人生がはじまつた子どもたちに携わる機会をいたしました。子ども時代に楽しい思い出と色々な体験をして、人に開かれた人になつてほしい。周りの人と自分なりの繋がり方を見つけ、納得した生活を送つていってほしい。

どんぐりクラブがその子にとって楽しく過ごせる地域の居場所であり、親以外の理解者や仲間との出会いの場になり、子どもが地域で育つその役になれればと思います。

どんぐりクラブがその子にとって楽しく過ごせる地域の居場所であり、親以外の理解者や仲間との出会いの場になり、子どもが地域で育つその役になれればと思います。

その子の気持ちが遊びを通じて表現できるように、日々のスタッフの気つきや経験を積み重ねて、事業所として本人や保護者のニーズに答える続けられるどんぐりクラブを目指していきたいと思いま

めたおもてなしをご提供できるように力を合わせて頑張っております。【営業時間】まごころ庵謝祭などがございます。その他成田山参道での販売も行つております。企画から準備までメリハリに繋がつております。企画から準備まで社員と職員が協力して行い毎回楽しい行事になつております。

主な施設行事としましては、社員旅行・BBQ大会・ボーリング大会・クリスマス会・お客様感謝祭などがございます。その他の成田山参道での販売も行つております。様々な行事は日々の仕事のメリハリに繋がつております。企画から準備まで社員と職員が協力して行い毎回楽しい行事になつております。

子どもにとって学校ではない時間は生活の多くを占めます。その時間がその子に多くの影響を与えていると思います。

放課後等デイサービス制度が始まって数年経ちますが、家庭や保護者のニーズに対しても制度的な不備を感じます。又、各事業所により運営や支援方法も様々です。スタートしてしばらくは、ただ慌ただしく過ぎてしまい、方向性を摸索する毎日でした。

日々の活動で何を拠り所にしていくのか？私たちの役割は？それは目の前の子どもが楽しみに通つてきているかどうか、その子の反応や姿、保護者の声が教えてくれます。

作業の一つであるお蕎麦屋のまごころ庵は昨年10周年を迎え、それを記念し施設ではまごころコンサートやシェフの料理教室など様々なイベントを開催しております。興味のある方はぜひご参加下さいませ。

その他の作業内容としましては、手作りの美味しいケーキとコーヒーが自慢の「お菓子の部屋フレンズ喫茶」の運営、帽子やコースターなど洋裁専門の「うさぎ工房」、飛行機で使用されるヘッドホンのセットアップ等の軽作業がございます。

多くのお客様に足を運んで頂きたい願いから、まごころ庵・フレンズ喫茶は今年から祝日休みの中無休営業になりました。社員・職員まごころ込

平日の放課後は海岸を散策したり、近くの公園

千葉知協トピック

第17回千葉友愛ピック駅伝大会報告

平成26年1月26日(日)、本協会後援、第17回千葉ゆうあいピック駅伝が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催され、61チーム303名の選手が健脚を競いました。

男子のメイン種目、ハーフの部(6区間約21km)では6チームが優勝杯を争いました。流山高等学園が第1区で区間賞を獲得し、先頭を奪うと第3区でも区間賞を取つて一時は2位で追う横浜ウインズ(神奈川)に2分38秒の差をつけそのまま逃げ切り優勝かと思われました。しかし昨年、一昨年と連勝している横浜ウインズは第4区、第5区と連続で区間賞を取つて底力を見せ猛追し、最終第6区でも区間賞をとつて逆転して3連覇を達成しました。流山高等学園はわずか22秒差でした。富里福葉苑Aが入りました。一方、女子のメイン種目であるクオーターレースでは流山高等学園



競輪選手も一緒に～ロードレースの部

が男子の悔しい分を取り返すかのように圧勝しました。準優勝は富里福葉苑、3位にはひかりAC(ひかり学園)が入りました。昨年優勝の豊四季光風園はアクシデントで記録なしでした。その他、結果は次の通り。

男子クオーターレース

優勝…静岡ハンディ(静岡)
準優勝…市川大野A

第3位…富里福葉苑

女子エイズ

優勝…不二学園
準優勝…富里特別支援学校

第3位…とまりぎJC

男子エイズ

優勝…富里福葉苑
準優勝…流山高等学園

第3位…とまりぎJC

ロードレース男子

優勝…須藤 貴信(はやぶさ)
準優勝…三橋 竜也(はやぶさ)

第3位…平尾明輝良(流山高等学園)

ロードレース女子

優勝…齊藤 里佳(流山高等学園)
準優勝…泉 悅子(かしわい苑)

第3位…橋本ひかる(富里福葉苑)

第22回さわやか芸能発表会報告

平成25年12月3日(火)、千葉県文化会館(千葉市中央区)にて第22回さわやか芸能発表会を開催しました。会場は1500席ありましたが、ほぼ

編集後記

新年度の開始。新しい職員、新しい事業。そして継続する利用者の方との向かい合い。それぞれの思いと願いをくみ取つて、温もりあるスタートとしたい。

舞台発表では、最優秀賞にはダンスを熱演しました。優秀賞はアーレンドディ(ダンス)、わかば園(楽器演奏)、南部よもぎの園(合唱)の3団体が受賞しました。敢

事務局便り

事務局長 千日 清

くすのき苑 水田 秀人

闘賞は、たかね園、市原市三和福祉作業所、小池更生園、かしのき園、袖ヶ浦学園、沼南育成園(以上ダンスで出演)、ワーク幕張(樂器演奏)の8団体が受賞しました。今大会から表彰することになつた展示部門ではひかり学園が最優秀賞を獲得しました。優秀賞は聖家族園、でい・さくさべ、協和厚生園が獲得しました。敢闘賞は、ワーケ幕張、八日市場学園、志津学園、上総喜望の郷、まつばつくり、日吉厚生園、アーランドディだいえい、ひかり学園アネックス、ピクシーフォレスト、第2ひかり学園の10団体でした。ゲストには沖縄出身の三線弾語りアーティスト華菜枝(かなえ)さんをお迎えしました。三線片手に沖縄音楽を表現していただき、会場は全体を巻き込みとても盛り上がりました。

スポーツ文化委員会 藤崎 明



最優秀賞・みちる園～舞台発表